石見銀山の景観と環境の評価

研究部会　第３分科会　森田俊作

第３分科会の研究テーマは、「環境・景観」であり、今年度は、世界遺産登録を目指して、官民が一体となって取り組まれている石見銀山をケーススタディとして取り上げ、現地研究会を行った。今回は特に温泉津町における産業及び銀山関連施設等を中心に視察した。

１．概要

平成１２年１０月２０日　温泉津町役場にて、町の地域振興策について説明を受ける。
福光石採石場、石州瓦製造工場、けい砂採取現場を視察
地元まちづくりの代表との懇談会（温泉津温泉）

１０月２１日　沖泊港、温泉津温泉の町並み、やきものの里、銀山街道を視察
石見銀山（大田市大森町）で解散

２．夢のマリンライン計画

温泉津町では、石見銀山に関連する歴史的遺産を活用して「全町自然・歴史フィールドミュージアム」構想を都市像に掲げ、様々な施策を展開し、交流人口の拡大を図り、地域振興を目指している。特に積極的にお話を頂いたのは、マリンライン開発事業計画である。

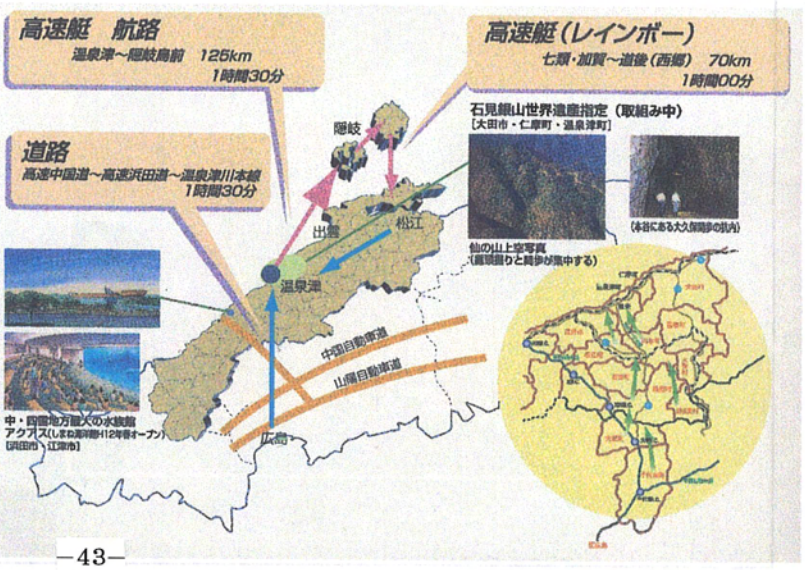
これは、県央市町村及び隠岐島各町村との連携を図りながら、政令指定都市広島市を視野に入れ、高速艇の就航を図ることにより、広島～県央～温泉津～隠岐を３時間で結び、島根県西部の「温泉津港（県管理港湾：3000ﾄﾝ岸壁）から隠岐島へ、また隠岐島から島根県東部を経由し広島県など山陽各都市へ結ぶ夢のビックトライアングル観光ルートの開発を促進するものであり、平成１１、１２年とチャーター便による試験運航がなされ、大きな反響があった。

その他では、全国難読サミットの開催やモーニング娘のコンサートの開催等、**交流人口**の拡大施策が積極的に展開されている。

また、ＪＡ等が中心となって、「温泉津ふる里人口夢配達便」が展開されており、町の特産品直送販売等を行い、都会に住む町出身者を中心としながら、町の特産品を利用してもらう**「ふる里人口」**を増やす運動も積極的に取り組まれている。

特に酒屋さんの「酒仙蔵人・五郎之会」では、米づくりや酒づくりを通して、温泉津町のファンを増やすという試みが行われている。

「会員限定のお酒が飲める。」

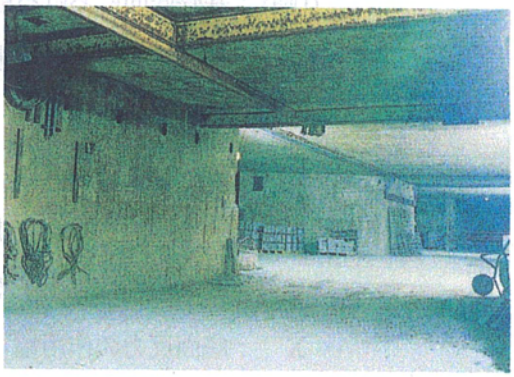


３．温泉津町の地場産業

①福光石

福光石は、凝灰岩の一種であり、古くから生活に必要な石製品に使われており、明治時代まで、出雲の来待石とともに、石製品の一大産地として栄えた。江戸時代には数多くの石製品（五百羅漢等）が作られ、現在も各所に残っている。従って福光石は、本地域の景観づくりの基礎となる素材である。

- 肌さわりがよく、表面が滑らないので、水周りや素足で歩く所には最適
- 風雨にさらされる所では、経年変化で黒ずんでくる様なので注意が必要（古色）
- 経済的な大きさを使う。



②石州瓦

石州瓦は、江戸時代中頃、来待釉薬を施すことで耐寒性と強度が飛躍的に向上し、「強くて丈夫で美しい瓦」と賞賛され、日本海沿岸一帯に広く普及したとされている。

現在は、生産ラインは高度に自動化され、品質の向上や安定が図られるとともに、デザインや色彩も多様になってきている。これも、本地域の景観づくりの基礎となる素材である。

③けい砂

月森氏の案内で、温泉津鉱山を見学した。

ここのけい砂は、質、量ともに全国でトップクラスであり、鋳物用としてはもちろん、高品質が求められるガラス原料にも優れているものであり、全国に向け出荷されており、各種のビンやガラス製品になっている。また、これらの素材を生かし、ガラス工芸も温泉津の特産品になっている。

４．温泉津町と石見銀山

①温泉津温泉街

温泉津の温泉街は、庄屋屋敷、なまこ壁の土蔵、元湯や藤乃湯等歴史を感じさせる建物や風格ある社寺が点在しており、スポット的には雰囲気があるが、全体としてはやや漠然とした感じがする。

②沖泊

幹線道路から車がやっと通れる素堀のトンネルを抜けると沖泊港に着いた。

穏やかな入江の風景や恵比寿神社、谷へ続く民家の佇まいは、当時の繁栄を忍ばせる雰囲気は十分に感じられるが、名物のはなぐり岩は、はっきりとはわからなかった。

③銀山街道

銀山街道の入口はよくわからなかったが、中に入ると約３ｍ程度の幅の道路が木立の中を通っており、それなりの雰囲気はあるが、もう少しイベントがほしい。

パンフレットで見ると、苔むした石階段等が写されているが、一体どこなんだろうか？

④西田の集落

銀山街道の温泉津側の入口である西田の里は、当時宿場町として栄えた所である。直線的な町並みにややその面影を残しているが、最もそれを感じさせたくれたのは、瑞泉寺である。谷間の現在の小集落には似合わない、立派な本堂や山門であった。

また、時期が幸いし、この地区独特の「ヨズクはで」（フクロウが羽を休めているかのようにみえる）を見ることができた。

５．おわりに

石見銀山は、平成１２年１１月開催された「世界遺産条約特別委員会」において、世界遺産暫定リストに追加され、いずれ世界遺産に登録されることとなる。

そうなれば、今まで以上に来訪者が増大するものと考えられ、今回現地視察をした範囲内で、今後検討すべき点について述べる。

①交流人口の増大に伴う諸問題への対策

町では、定住人口に加え、交流人口、ふる里人口を増大させることで、地域の活性化を目指している。世界遺産登録は、おそらく交流人口を飛躍的に増大させる契機になると思われる。

温泉津町は、産業や景観面において、地域の自然素材（環境）や伝統的技術に支えられた歴史や風土が感じられる町（素朴な町）であるという印象がある。

今後来訪者が増大していく中で、町づくりの基本姿勢（町の歴史・環境・景観を愛し、誇りを持つ）を明確にして、官民が一体となってそのスタンスを維持し、来訪者にアピールしていかないと、地域のバランスが崩れ、町の魅力（世界遺産としての価値）が失われることが懸念される。

●交通処理、ゴミ処理、生活環境、観光施設

②案内システムの整備

石見銀山関連施設は町内に散在しているが、どこに何があるかよくわからない。パンフレットやイラストマップを貰ったが、それだけでは辿り着きそうにない。また着いても、うまく解説等ができないと感動は与えにくい。

従って、世界遺産への登録に向け、来訪者の案内システムを確立しておかないと、かなりの混乱を招く恐れがある。これは、単に道標だけでなく、道路網や交通システム、拠点整備や解説等も含めた案内システムとして整備する必要がある。

③海上交通の活用

温泉津町が中心となってマリンライン構想として、隠岐への観光ルート開発が進められつつある。これをさらに拡大し、県内のかつての北前航路の港を連携して、広域観光ルート「２１世紀の北前航路」の復活させることで、世界遺産登録を契機に全県下での地域振興を図る。